
パンデミック

京谷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パンデミック

【Nコード】

N0478Z

【作者名】

京谷

【あらすじ】

ある日、突如として世界に変化が訪れる。

そんなことは知る由もない男「笹塚京谷」はいつも通り昼寝をしようとしていた。

そんなときに外が騒がしくなってきた。

あまりのうるささにカーテンを開けた京谷が見たものは・・・

（前書き）

まず、一つ注意がございます。

自分で書いていても思うんですが、セリフが多い！とにかく多い！
なので小説って感じがしないかもしれないかもしれませんが、どうか温かい目で
見守っていただけると幸いです^^

「あー昼寝できねえじゃねえか。」

自室で愚痴っているのは、笹塚京谷。

「日曜日だつてのに外がうるさくて寝れやしねえよ」

「祭りでもやってんのかあ？」

カーテンを開けてみた。

「あああ？」

目に飛び込んできたのは、今までやったことのあるゲームのような光景だった。

「人が人を襲ってんのか!？」

「!？」

襲われている人を中心にして真っ赤な海ができた。

「血だよな・・・あれ」

（このままじゃまずい！助けなきゃやべえよ。）

部屋にあったバットを手にし部屋から飛び出した。

家から出ると状況の悪さが一瞬でわかった。

飛び交う声は悲鳴だけ、道路に投げ捨てられている車の中には燃えているものまであった。

「なんだよ？朝はこんなじゃなかったぞ」

（とにかく助けなくては）

京谷は襲われている人に向かって走り出した。

（以外に距離があつたんだなあ・・・）

京谷は人命救助をしようと道を爆走中、バットを片手に持つて。

普段なら今の笹塚の恰好を見れば悲鳴の一つでも上がったかもしれないが、

悲鳴はもう充分なくらいに至るところから聞こえていた。

「ようやく着いた。」

一人の人間に群がる人間。いじめの瞬間を見ているみたいで少し頭に血が昇る。

「おい！なにやってんだ。いい大人が多勢に無勢とはよ！」

「ウウウウウウウウウ」

「あ？聞こえねえよ。とにかくそこから離れる。」

「ウウウウブチウウウウ」

「おい！何やってんだ、お前ら！」

京谷は自分が無視されていることで若干切れ始めていた。

「おい・・・いい加減離れねえとこいつでブン殴るぞ！」

「ウウウウウウ」

「警告はしたからな。くそ野郎！」

（こいつでどうだ！）

ドゴッ！

フルスイングが奴の背中にヒットした。
しかし、京谷の手は止まらなかった。

（後書き）

ここまで読んでくださった方、本当にお疲れ様です・・・
たぶん文がおかしかったり、言葉の使い方が間違っていたりしたか
もしれません。

申し訳ありません。

そこで皆さまにお願いがございます、改良点などがあつたらぜひ書
いていただきたいのです。

わざわざ書くのは面倒くさいかもしれませんが、何卒酔よろしくお
願いいたします。

最後にもう一度読んでくださった方々に感謝をして終りたいと思ひ
ます。

本当にありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0478z/>

パンデミック

2011年12月1日21時46分発行